

肝Co こんな活動も

臨床検査技師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝Co）から集めた肝Co活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝Co仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝Coの受講を勧める。仲間を増やす。（肝Coの育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝Coのバッジなどをつけて肝Coの存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝Co活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝Co活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載したTシャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

臨床検査技師さん だからこそ

- 肝炎ウイルス陽性者の拾い上げ方法やリストの作成方法などを施設間で共有する。
- 肝炎ウイルス陽性患者の拾い上げについて同職種にも情報提供する。（日常業務で分野が違っても同職種でも知識が少ない人もいるため）
- SLDについてポスターを掲示したり、腹部超音波検査時などに広く啓発を行う。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
 - 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
 - 受検勧奨のポスターを掲示する。
 - 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
 - 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
 - 受検勧奨資材の見直しをする。
 - 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

臨床検査技師さん だからこそ



- 採血の待合室に無料肝炎ウイルス検査の内容や、肝炎に関する正しい情報を掲示する。
- 来院時の問診票に「無料で肝炎ウイルス検査が受けられます。希望しますか？(はい・いいえ)」の一文を追加する。
- 拠点病院と連携・情報交換を行い、県内企業や老人会などへの出張肝炎検査に参加する。
- 無料肝炎ウイルス検査を実施する。(例) 物品の準備・採血・パンフレットの配布・検査説明。
- 外来採血時に、血液検査の内容や結果の説明をすると同時に、術前検査での HBs 抗原・HCV 抗体検査の結果は後日医師から説明があると伝えておく。
- 検査結果の見かたについて説明する。(肝炎ウイルス検査結果の解釈について、特に HCV 抗体は HBs 抗原とは異なり、中和抗体でないことを説明する。)
- 腹部超音波検査時に肝硬度測定を行い、数値化して肝線維化の程度を伝える。
- 「糖尿病教室」や糖尿病療養指導時に、Fib4-index の計算、腹部超音波検査を勧め、脂肪肝の有無や発がんリスクについて説明する。
- 化学療法やステロイド剤を使用する患者さんの B 型肝炎再活性化リスクのための HBs 抗原検査の推奨並びに治療中の継続したモニタリングを勧める。
- 陽性者への結果報告だけでなく、「役立つ制度の一覧」「肝疾患専門医療機関一覧」「大学肝疾患相談室の案内」を渡す。
- 検査結果を必ず通知しなければならないこと(厚労省通知文を提示して)

を周知する。

- 肝炎ウイルス検査の結果や検査の有無を忘れてしまう患者さんも多いので、「肝炎検査（結果）カード」を作成し渡す。
- 患者さんの検査結果をすみやかに臨床側へ報告する。
- 過去の検査歴より肝炎ウイルス陽性者を拾い上げ、医師へ報告する。
- HBs 抗原と HCV 抗体の初見陽性者を抽出しすみやかに担当医に報告する。
- 一定期間（1 回 / 週等）で HBs 抗原と HCV 抗体の初見陽性者を抽出し肝疾患センターの医師や看護師と共有するシステムを構築する。
- 健診センターの受診時に、事前に肝炎ウイルス検査の未受検者をピックアップする。
- Fib4-index 等、指標の導入をする。（検査部門システムが電カルで演算式を作ってもらい表示できるように働きかける。）
- 紹介状や検査申込書（超音波検査・CT・MRI 等）に、肝炎ウイルス検査の結果が記載される場所を作る。
- 報告書を自動出力できるように、システムを設定する。（検査数や陽性率、収支報告書等）
- 検査依頼がしやすいよう、検査セットを作成する。例）無料肝炎ウイルス検査セット・陽性者の定期検査セット（1 ヶ月・3 ヶ月・6 ヶ月・12 ヶ月等）、CT や MRI と採血・超音波等も同一セットに組み込むなど。
- 透析の 6 ヶ月毎の検査セットに、HBs 抗原・HCV 抗体等を組み込む。
- 糖尿病・脂質異常症の年 1 回検査に超音波検査を組み込む。または誕生日に年 1 回の検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査時の院内フロー図を作成する。
- 検査陽性時に依頼医師 + 肝 Co + 肝臓専門医へ自動メール送信機能を設定する。

受診

肝炎ウイルス検査
陽性者に肝臓専門医での
精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。（症状がない間にも進行しているのですのでに受診するように説明）
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C 型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが 2 倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

臨床検査技師さん だからこそ



- 検査結果の説明（肝炎ウイルス検査の結果・肝機能検査の結果など）と受診を勧める。
- 肝炎ウイルス陽性患者の未受診の抽出をする。（リスト作成、担当医へのアプローチ）
- 肝炎ウイルス陽性患者数、肝疾患専門外来受診、未受診の現状調査を行う。
- 肝炎ウイルス検査の陽性者のリストアップ後、専門医がいる場合は専門医へ、いない場合は ICT 等に相談する。
- 肝炎ウイルス検査で新規の陽性者を、肝臓専門医・肝臓専門看護師・肝臓専門相談員に報告する。
- 肝炎ウイルス検査の新規の陽性者の追加検査を主治医に相談する。
- 肝炎ウイルス検査陽性で精密検査が必要な場合、受検者の希望する専門医療機関を一覧から探し、地域連携室を介し紹介する。
- 医療従事者の針刺し事故後の血液検査を行う。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。（医師の確認後）
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。（両立支援）
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

臨床検査技師さん だからこそ

- 採血時に患者さんの訴えを傾聴する。
- 定期受診・定期検査の重要性を説明する。

フォロー アップ

肝がんの早期発見のため 定期的な検査を勧める

共通の 活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。（治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。）
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であることを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。（対象者）

臨床検査技師さん だからこそ

- 陽性者の定期検査のセット（1 ヶ月・3 ヶ月・6 ヶ月・12 ヶ月等）
- 採血室に定期検査の啓発ポスターを掲示する。
- 腹部超音波検査後に、次回の定期検査について声かけを行う。